

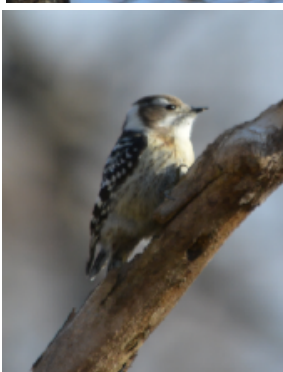
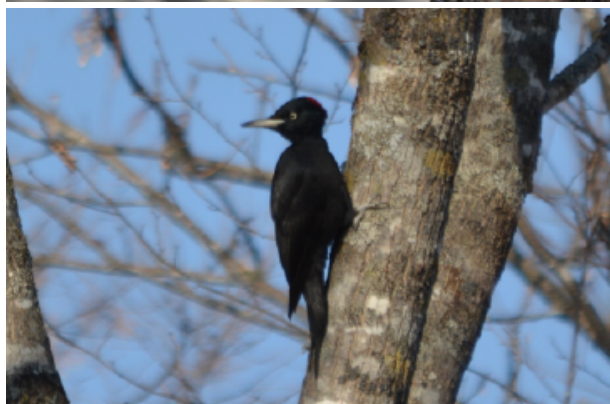
2020年12月号

12月15日(火)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

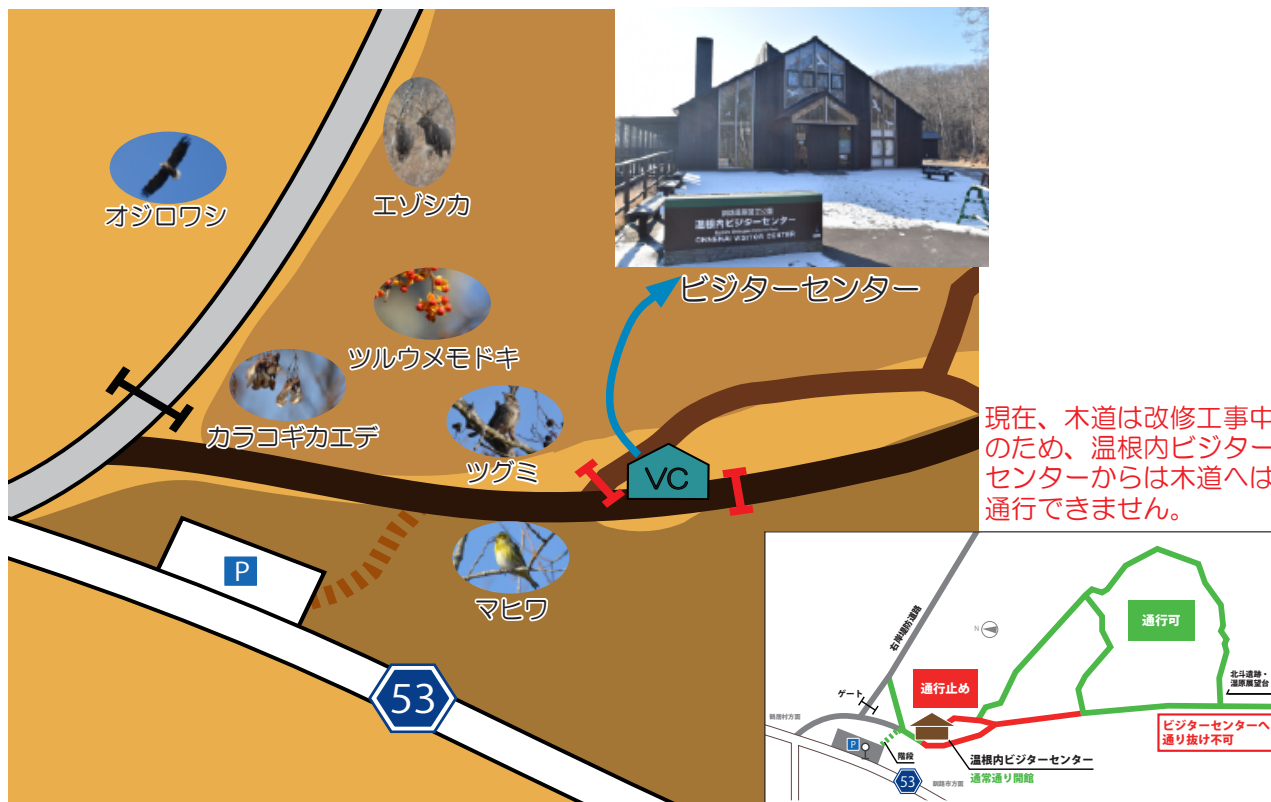
月刊 温根内通信 No. 291



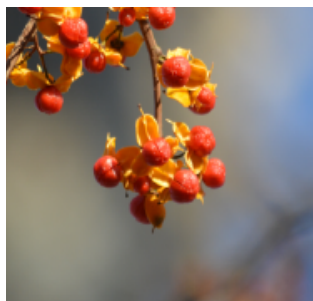
キツツキの楽園？…

けたたましい鳴き声と羽音。オオアカゲラの、なぜかメス同士が小競り合いを繰り返していました。にらみ合いと追いかけ合いが続く中、様子がかがうアカゲラも。すると別の日、「ケ・キョーン！」の声とともに今度はクマゲラが姿を現しました。普段、何気なくビジターセンターの窓から見ている林は、キツツキにとって好条件な何かがあるのでしょうか。

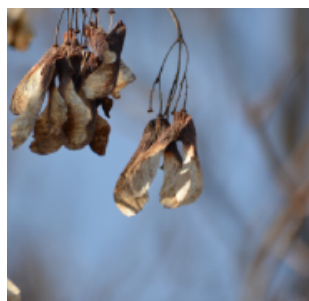
☆☆☆温根内ビジターセンター周辺の自然情報☆☆☆



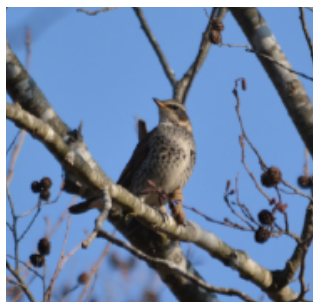
～温根内ビジターセンター周辺の自然～



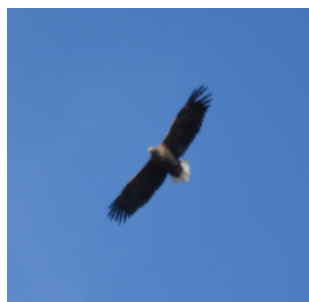
【ツルウメモドキ（実）】
ニシキギ科 蔓梅擬
つる性の植物で、他の樹木
に絡まって伸びています。
赤い実がよく目立ち、鳥た
ちもこれをせっせとついで
んでいます。



【カラコギカエデ（実）】
ムクロジ科 鹿子木楓
前号で紹介したイタヤカエ
デの実と似ていますが微妙
に形が違います。これも滞
空時間を稼ぐためのプロペ
ラ状の構造をしています。



【ツグミ】 冬鳥
ヒタキ科 鶇
ビジターセンター周辺のハ
ンノキ林で声がよく聞こえ
てきます。上のツルウメモ
ドキの実を好んで食べてい
るようです。



【オジロワシ】 冬鳥・留鳥
タカ科 尾白鷲
魚類を主食としていま
すが、温根内の上空でも時折
姿が見られます。優雅に飛
翔する姿はいつも見とれて
しまいます。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（11月15日～12月14日）和名は日本鳥類目録第7版の順
■タンチョウ■トビ■オジロワシ■オオワシ■ノスリ■コゲラ■オオアカゲラ■アカゲラ■クマゲラ■チョウゲンボウ
■モズ■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■ヒガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ
■キバシリ■ツグミ■アトリ■カワラヒワ■マヒワ■ベニヒワ■シメ■アオジ

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

○表紙の写真 上：にらみ合うオオアカゲラ 中右：アカゲラ 中左：クマゲラ 下：コゲラ

☆☆☆☆ 自然ふれあい行事が開催されました ☆☆☆☆

○『初冬の植物を見に行こう』11月15日 参加者：10名

釧路市立博物館の加藤学芸員に講師をお願いし、冬を間近に控えた植物たちがどのような戦略で子孫を残そうとしているかなどを探る観察会を行いました。右岸堤防へと向かう道沿いではツルウメモドキなどの樹木の実がとても目立っていたほか、ヤチダモやカエデ類のプロペラ状の実も多く残っており、その構造に参加者は関心を寄せていました。また、堤防沿いでは冬越しを控えた各種のロゼット葉や、水中で殖芽をつけたタヌキモの仲間が見られ、加藤氏はこれらを手に取りながら丁寧に説明されていました。湿原を見渡せる堤防上を歩くと、少しの環境の違いで生育する植物がかなり違ってくことも実感できました。いつもとは違ったコースを散策することで新たな発見もあり、参加者やスタッフにとっても非常に有意義な観察会となりました。



○『クリスマスリースを作ろう』11月29日 参加者：18名

毎年人気を博している恒例のリース作りを行いました。いつものように、まず参加者自身が自由に作ってもらい、必要であれば講師の甲斐氏からアドバイスを加えるという形式で作製を開始しました。参加者らはリースの土台に用意された飾りを配置し、思い思いの作品を練り上げていきました。甲斐氏からは適宜時間を作ってオーナメントのバランスやリボン装飾の作り



り方などを教えていただきました。開始1時間半を過ぎたあたりから完成品



ができつつあり、仕上げのアドバイスを受ける参加者もいました。今年はドライフラワーやニオイヒバといった自然の素材を意識した、味わい深い作品が多く見られました。皆さんどうぞ楽しいクリスマスを！

※新型コロナウイルス感染予防のため、席の間隔を空けてアルコール消毒液を配置し、時折換気も行いながら実施しました。

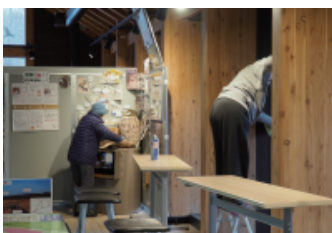
○『湿原の「かたち」を見て歩こう』12月6日 参加者：10名

ビジターセンター職員の藤原が案内を務め、湿原とその周りの地面や植物の「かたち」に着目して歩く会を行いました。まずは館内の展示を用いて、釧路湿原の過去から現在の大きな地形変化について予習をし、その後屋外へと出かけました。天気にも恵まれたこの日、右岸堤防道路から見られる段丘地形や、阿寒の山々について解説し、釧路湿原がこういった段丘や火山に囲まれた、大きな意味での谷地形であることを実感してもらいました。また、過去と現在の空中写真を見比べながら、湿原の環境がどのように変わっていったかなどを参加者に想像してもらいました。このほか、葉が枯れ落ちた木々の種類をその樹形や樹皮から判別することを試みました。会の終盤には参加者の目も慣れて、いくつかの種を見ただけで判別できるようになってきていました。いつもとは違った視点で湿原を眺められた一日となりました。



☆☆☆☆ 1年の汚れをみんなできれいに！ ☆☆☆☆

12月12日（土）に、パークボランティアの方々のご協力で館内と周辺の大掃除を実施しました。普段、職員が気づかない汚れまでしっかりと落としていただき、ビジターセンターは輝きを取り戻しました。小雪の舞う中、大掃除に来ていただいたボランティアの皆様、ありがとうございました！



☆☆☆ トピック どこへ行った？温根内のニホンザリガニ③ ☆☆☆

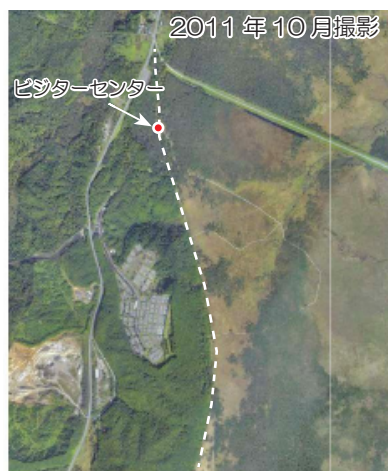
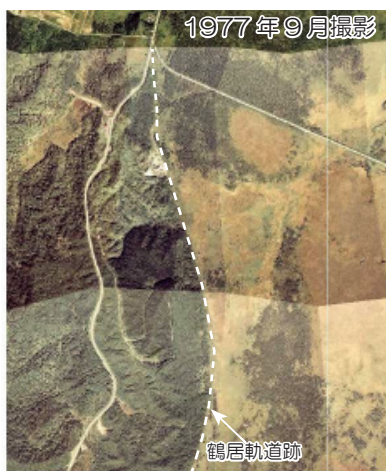
前回は、ニホンザリガニが激減した理由の一つに、特定外来生物のアメリカミンクが食べつくしてしまったのでは？という説を挙げました。それ以外に、ニホンザリガニが生息していた環境そのものが変わってしまった？、という可能性について探っていきたいと思います。

まず、**釧路湿原とその周辺の環境はこの数十年で大きく変わってきた**ことは確かです。その大きな原因のひとつは言うまでもなく、人間による開発です。そしてそれは、温根内周辺も例外ではありません。右下の写真は国土地理院が公開している、1977年と2011年の温根内ビジターセンター周辺の空中写真です。（1977年にはまだビジターセンターも木道もできていません。）これらの写真を見比べても、周辺域が開発されて環境が変わりつつあることがわかってきます。しかし、難しいのはここからです。果たしてこういった環境変化が一体、「どのように」ニホンザリガニに影響を及ぼしているのかは、**現在でもよくわかっていない**のです。ニホンザリガニが生息できる条件としては、水温が5～20℃に保たれることや、餌や隠れ家となる落葉広葉樹の葉が供給されるこ

となどが言われています*。いくつかあると思われるニホンザリガニの生息条件が何らかの理由で欠け、環境の変化についていけずに数を減らしていった可能性はありますが、その結論に至るにはデータが足りていないというのが現状です。

知れば知るほど謎の多いニホンザリガニですが、皆さんはどうお感じでしょうか。私たち一人一人が、その生態や環境に関心を持ち続けることが何よりニホンザリガニを守っていくことに繋がると私は思います。（藤原伸也）

*山田浩行 (2014) Cancer, 第23巻, p.99-106



☆☆☆☆ イベントのご案内（1月）事前の申し込みが必要です ☆☆☆☆

新型コロナウイルスの感染状況により行事自体が中止になる可能性があります。事前に各施設へご確認ください。

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み ☎ 0154-65-2323

♪湿原アニマルトラッキング

〔日時〕1月17日（日）10:00～12:00 〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

雪の上の足跡や、あちこちに残る痕跡から、湿原周辺の動物の行動と暮らしについて考えます。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み ☎ 015-487-3003

♪連風を作って揚げよう

〔日時〕1月16日（土）10:00～12:00 〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～年末年始休館のお知らせ～

今年もお世話になりました。当ビジターセンターは下記の期間、年末年始休館となっております。

今年は思いもかけない1年となりましたが、来年は皆様にとってよい年がありますようにお祈りしています。

<年末年始休館日>

2020年12月29日（火）～

2021年1月3日（日）

月刊 温根内通信 No. 291

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185

E-mail: ovc@hokkai.or.jp

ホームページ: <http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/>

Facebook: 温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間: 9:00～16:00（4月～10月は17:00まで）

休館日: 毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料